opusdei.org

黙想:復活節第6主日 (C年)

黙想のテーマ:「魂に住まわれる神」「聖霊と平和」「聖 霊の火で」

2025/05/24

魂に住まわれる神

聖霊と平和

聖霊の火で

復活節も徐々に終わりに近づいてい ます。この数週間、私たちは復活さ れたキリストが、使徒たちや聖なる 婦人たちと出会われた場面を思い起 こしてきました。主の昇天と聖霊降 臨の祭日が近づく中、教会は私たち に、この二つの荘厳な祭日を迎える 準備をするよう招いています。福音 書には、イエスが最後の晩餐の席で 語られた〈別れ〉の言葉が記されて います。「わたしを愛する人は、わ たしの言葉を守る。わたしの父はそ の人を愛され、父とわたしとはその 人のところに行き、一緒に住む」(ヨ ハネ14・23)。

イエスは、神の愛が私たちにとって どれほど大きいかを示しておられま す。そして、神が、私たちの魂に住 まわれるという神秘を明らかにして くださいます。私たちは、聖三位一 体の神の神殿、すなわち住まいとな るように召されているのです。「私 たちは、神との交わりにおいて、こ れ以上に願うものがあるでしょうか。神が私たちとの交わりを望んでおられることの、これ以上の証があるでしょうか?何千年にもわたるキリスト教神秘思想の歴史は、その崇高な表現をもってしても、魂のの現におけるこの言い尽くせない神の現存について、完全に表現しきることはできないのです」[11]。

神は、ご自身がどれほど私たちに近 い存在であるかを示しておられま す。ただ、私たちのそばにいるだけ にとどまらず、私たちのうちに住ま い、ご自身の現存によって私たちの 心を満たしたいと望んでおられるの です。「神は、今ここで私たちと共 に生き、現存しておいでになる」と 聖ホセマリアは書いています。「私 たちを見、私たちに耳を傾け、私た ちを導き、私たちの最も小さな行い や心の奥の意向をご覧になってい るしで、たびたび神に心を向けるこ とによって、私たちはその現存を実 感し、日々の生活を形作る大小さまざまなことに忠実でいられるようになります。「このように親しく神と接していくなら、あなたは神の良き子、親しい友となるでしょう。通りにいても、広場にいても、仕事の中でも、職業においても、日々の普通の生活の中で」。

「わたしは、あなたがたといたともに、これらのことを話した。しかした。し、弁護者、すなわち、父がわを聖霊をよったがはなるととさる」であるたがだにすべてをこととされたが話したことをもしていましたができまれたがは、という生まれたがは、聖霊によるは、とは、というでは、というでは、というでは、というでは、この神の神の神の神の神のには、三位一体の神の神のには、これがたというでは、というでは、これがたいかがいる。

の位格である聖霊の助けが、決して 欠けることはないのです。

間もなくイエスが去っていかれるの を前に、使徒たちは、自分たちが取 り残されるのではないかと不安に 思っていました。彼らに託された使 命の大きさと、彼ら自身の能力との 隔たりは、大きかったのです。彼ら は、キリストの言葉を全世界に伝え るという使命を、どのように果たす つもりだったのでしょうか。そのた めに、イエスは聖霊を遣わすことを 告げ、弟子たちの心を平安で満たし たいと願われました。「わたしは、 平和をあなたがたに残し、わたしの 平和を与える。わたしはこれを、世 が与えるように与えるのではない。 心を騒がせるな。おびえるな | (ヨハ ネ14・27)。

イエスは、聖霊を通して弟子たちに ご自分の平和を与えられました。そ れは神からの賜物であり、人間の力 だけでは得ることのできない平和で す。この地上に「あるのは、上辺だ けの平和、恐れが動機となっている 均衡状態、あてにならない約束だけ ですしてる。それに引き換え、主が私 たちに与えてくださる平和は、なに よりもまず聖霊が私たちの心に注い でくださる神の愛によるものです (ローマ5・5参照)。「主の平和 は、柔和と十字架の道を歩みます。 それは、他者に対して責任を負うも のです。実際、キリストは、わたし たちの悪と罪と死を引き受けられま した。これらすべてをご自身に引き 受けられたのです。このようにし て、わたしたちを解放してくださっ たのです。わたしたちのために報い を受けられたのです。キリストの平 和はある種の妥協の産物ではなく、 むしろ自己犠牲から生まれるので す | ₁₅₇。

初代教会における聖霊の働きは、エ ルサレム使徒会議において明らかに されています。「聖霊とわたしたち は、…次のことが良いと決めまし た」(使徒言行録15・28) とあるよ うに、使徒たちや長老たちは、ユダ ヤ人ではないキリスト教徒を含むす べての人々に、どのように福音を伝 えるべきかを協議するために集まり ました。聖書は、このような特定の 問題にとどまらず、初代教会が慰め 主である聖霊の導きのもと、熱心に 信仰を広めていった様子をも明らか にしています。

この宣教への情熱は、絶えず新たに されながら、教会の歴史を通して示 されてきました。そして、私たちが 参与する福音宣教の使命において 参与する福音宣教の使命においま す。「聖霊は、キリストの最初の最 来から再臨に至る長い旅路を、別わた とともに歩んでおられます。『わた しは去って行くが、また、あなたが たのところへ戻って来る』(ヨハネ 14・28)と、イエスは使徒たちに言われました。キリストの『去る』と「原る』の間の時、それはキリストの『戻る』の時である教会の時であります。聖霊は、同じ、中である教師です。聖霊は、まるように導く教師です。聖霊は、エスをように導く教師です。聖霊は、エスだされるです」「EI」。

聖ホセマリアは、司祭としての初期の頃、聖務日梼に何枚かの御絵をるおりとして挟んでいました。あるこれをしていました。なはそれらに執着に取りう書に気がされたの紙にこうは、それにこの火で私たちをといるとは、では、こう回想しています。「私を表にないました。それを表にした。それを表に言ったことは『私を燃いた、聖霊に言ったことは『私を燃いないます。」

やしてください! 熱く輝く炭火にしてください!』でした」 で。 私たちも、聖母マリアとともに祈りな師の に使徒言行録1·14参照)同じ願いを抱いて、私たちの心に聖霊を迎える神とすべてのよう。そうすれば、れ、をしましょう。 とがでものように、出会うさんできるでしょう。

- [1] 聖ヨハネ・パウロ二世、説教、 1986年5月5日。
- [2] 聖ホセマリア『拓』658番。
- [3] 聖ホセマリア、団らんのメモ、 1972年11月17日。
- [4] 聖ホセマリア『知識の香』73番。

- [5] フランシスコ、一般謁見演説、 2022年4月13日。
- [6] ベネディクト十六世、説教、 2007年5月13日。

[7] Salvador Bernal 『Josemaría Escrivá de Balaguer』 1980, p.337。

pdf | から自動的に生成されるドキュメント https://opusdei.org/ja-jp/article/mokusou-fukkatsusetsu-shujitsu6c/(2025/12/15)